





国際通信調停ワークショップの様相

日時	発表内容(発表者)	発表模様
<p>●日時 平成21年10月29日(木)午後</p> <p>●開催場所 ソウルプラザホテル (韓国ソウル特別市)</p> <p>●主催 韓国放送通信委員会(KCC)</p> <p>●目的 各国で異なる通信調停システムを比較し、様々なタイプの紛争に関する情報を共有することで、出席者の相互理解を促進し、通信調停システムの整備策について議論。</p> 	<p>●開会の辞 (ソン・ドギユン韓国放送通信委員会(KCC)常任委員)</p> <p>● 今回の国際通信調停ワークショップは、参加各国における紛争調停の動向等を知ることができる意義のある機会であり、このワークショップが紛争調停システムを更に向上させ、国家間の協力体制構築に寄与する機会になることを祈念するとの開会の辞が述べられた。</p>	
<p>●日本側出席者 電気通信事業紛争処理委員会 龍岡委員長 坂庭委員長代理 同委員会事務局 井上参事官 幾田上席調査専門官</p>	<p>●祝辞 (龍岡 資晃 電気通信事業紛争処理委員会(TBDSC)委員長)</p> <p>● 主催者である韓国放送通信委員会への謝辞を述べるとともに、グローバル化の進展に伴う国際的な電気通信事業者間の紛争の可能性について言及し、また、ワークショップでの活発な議論、参加国の協力関係の強化について期待するとの祝辞を述べた。</p>	
<p>セッションⅠ：国際通信調停システムの現状と調停事例 議長：チャ・ジョンイル(崇実大学校)</p>		
	<p>●EUにおける紛争調整に係る論点 (ステファノ・ニコレッティ/オーバム社)</p> <p>● イギリス・イタリア・ポーランド・スウェーデン等の事例を中心にEU各国における電気通信事業者に対する規制の現状について発表を行った。</p>	

発表内容(発表者)	発表模様
<p>●電気通信事業紛争処理委員会の概要 (井上 知義/電気通信事業紛争処理委員会(TBDSC))</p> <p>● 電気通信事業紛争処理委員会の組織・機能、委員会による紛争処理の状況及び委員会が果たしている役割、具体的な紛争処理事例の概要について発表を行った。</p>	
<p>●オーストラリアでの通信調停：最近の経験と情勢 (ロバート・ライト/オーストラリア競争・消費者委員会(ACCC))</p> <p>● オーストラリア競争・消費者委員会(ACCC)の役割、紛争調停に関する法体系、電気通信市場の現状、現行の紛争調停モデル、紛争処理の迅速化に向けた動きについて発表を行った。</p>	
<p>●韓国での通信調停システム (パク・ドンジュ/韓国放送通信委員会(KCC))</p> <p>● 韓国放送通信委員会(KCC)の役割、紛争処理プロセス、具体的な紛争事例、現行紛争処理システムの改善すべき点と今後の取組について発表を行った。</p>	
<p>セッションⅡ：通信調停システムの整備策 議長：チャ・ジョンイル(崇実大学校)</p>	
<p>●ワーキンググループ・ディスカッション</p> <p>● 各国における紛争処理プロセスの相違点、紛争処理システムの果たすべき機能、役割、中立性などについて議論が行われた。</p>	
<p>●閉会の辞 (チャ・ヤンシンKCC利用者保護局長)</p> <p>● 発表者とパネリストに感謝するとともに、市場環境の変化により従来のジャンルを超えた紛争解決手段の検討が必要であり、今後もこうした機会を通じて各国が連携していくことが重要との閉会の辞が述べられた。</p>	